

6学年1組 国語科学習指導案

児童 男子13名 女子16名 計29名
指導者 米澤 功司

- 1 単元名 賢治の世界を味わい、作品を紹介しよう
 学習材 「やまなし」 宮沢 賢治 (光村図書6年)
 資料 「イーハトーヴの夢」 畑山 博 (光村図書6年)

《付けたい力》

- 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。(読イ)
- ◎ 登場人物の相互関係や場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。(読工)
- 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。(読オ)

宮沢賢治のものの見方や考え方がよくわかる作品を選び、それを紹介するリーフレットを作る。

2 単元について

(1) 児童について

児童は、「C読むこと」の指導事項イ、エ、オの力を付けることをねらった単元として、5年下「大造じいさんとガン」では、会話や行動、情景描写から登場人物の心情を捉えたり、物語の魅力について自分の考えをまとめたりする学習を経験してきた。「百年後のふるさとを守る」の学習では、伝記を読みその人物の生き方や考え方について自分の考えをまとめる学習をしてきた。また、6年上「カレーライス」では心情の変化から物語の山場を捉えたり、登場人物の言動について考えたことを互いに交流したりする活動を行い、自分の考えを広げたり深めたりする学習を行ってきた。

児童は今までの学習を通し、叙述を根拠に登場人物の心情や場面の様子を捉え、それを基に自分の考えをもつ力を身に付けてきている。しかし、自他を比較しながら互いの考えを交流し、広げたり深めたりする力にはまだ個人差がある。また、郷土の先人、宮沢賢治の生い立ちやその作品についての知識をもった児童は多いものの、作者のものの見方や考え方が作品にどのように反映されているかという視点で物語を読むのは初めてである。

(2) 学習材について

学習材である「やまなし」は、いくつかの場面を比較して読むことで、作品中に登場する様々な表現から情景や心情を捉える力を身に付けるのに適した構成、内容の作品であると考えられる。さらに資料「イーハトーヴの夢」で紹介される宮沢賢治のものの見方や考え方を重ね合わせることで、より深い読み味わいができ、宮沢賢治が書いた他の作品への興味も深まるものと考えられる。

(3) 指導について (研究内容との関わり)

① 必要感をもって追及できる課題の設定

第一次で、「宮沢賢治のものの見方や考え方がよくわかる作品を選び、それを紹介するリーフレットを作る」という単元のゴールを明確に示し、その目的や学習計画、学習課題を話し合うことで、見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるようにする。そうすることで、「やまなし」を読む学習にも必要感をもって取り組むことができると考える。

② 自分の考えと比較し、考えを広げるための対話の充実

作品を紹介する文章の交流を行う際には、同じ作品を選んだ児童を一緒にするなど、意図的にグループを構成する。それによって、自他の考えを比較しながら交流することを容易にし、自分の考えを広げることができるようにしていきたい。

③ 自己の学びとその汎用性を自覚させる振り返りの工夫

初発の感想と物語の学習後の感想を比較させることで作品の読みがより深まったことを自覚させる。また、「やまなし」を紹介する文章を書く経験を活かして、他の宮沢賢治の作品を紹介するリーフレットを作る活動ができたことを振り返らせることで、作者のものの見方や考え方が作品にどのように反映されているかという視点で物語を読むことの有効性や汎用性を自覚することができるようにしたい。

3 単元の指導目標

- 賢治のものの見方や考え方について、自分の考えを明確にしなが賢治の作品を読もうとしたり、進んで自分の考えを広げたりしようとする。 【関心・意欲・態度】
- ◎ 目的に応じて、二つの場面を比べて読むことができる。 【読むこと】
- ◎ 作品の情景描写を叙述に即して伝え合い、想像を広げながら読むことができる。 【読むこと】
- ◎ 作品を読んで考えたことを伝え合い、自分の考えを広げることができる。 【読むこと】
- 比喩的な表現を手がかりにして、情景を想像することができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ 物語の情景や言葉の使い方に興味をもったり、作者の考え方や生き方を知ったりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的に応じて、二つの場面を比べて読んでいる。 (読イ) ・ 作品の情景描写を叙述に即して伝え合い想像を広げながら読んでいる。 (読エ) ・ 作品を読んで考えたことを伝え合い、自分の考えを広げている。 (読オ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物語の構成について意識をもったり、比喩などの表現上の特色について気付いたりしている。 (言イ(ケ))

5 単元の指導計画・評価規準 (全10時間)

次	学 習 活 動	○主な指導上の留意点 ◆評価規準 <評価方法>
一	① 「やまなし」の全文を読み初発の感想をもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 宮沢賢治について知っていること出し合う。 ・ 学習材「やまなし」を全文音読し、初発の感想を書いて交流する。 ・ 物語の構成などについて確認する。 	○ 二枚の幻灯という、作品の構成を意識させるようにする。 ◆ 初発の感想を書き、友達の感想と比較しながら交流している。 【読オ】<ノート>
	② 初発の感想を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 追究していくことや、そのために必要なことを明らかにしながら学習課題や学習計画を話し合う。 	○ 「宮沢賢治のものの見方や考え方がよくわかる作品を紹介するリーフレットを作る」という目的を明示し、平行読書等に意欲的に取り組めるように計画を立てる。 ◆ 学習課題や学習計画を考え、単元の見通しをもっている。【関・意・態】<発言>
	③ 「イーハトーヴの夢」を読み、賢治のものの見方や考え方について知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 賢治のものの見方や考え方の基になった出来事、作品が誕生した背景などを年表にまとめる。 	○ 年表や成長の節目に沿って、賢治の言葉や行動などを整理させる。 ◆ 賢治のものの見方や考え方に興味をもっている。【関・意・態】<発言・ノート>
二	④ 「五月」の谷川の情景を読み取る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 谷川の様子(水や光の様子)、かへの会話や様子、出来事(上から来たもの)の3つの観点に沿って話し合う。 	○ 擬声語や擬態語、比喩表現に着目させながら情景を捉えさせるようにする。 ◆ 擬声語や擬態語、比喩表現などに着目し、その役割や効果に気付き、情景を読み取っ

		ている。【読イ言(1)ク】<発言・ノート>
	⑤ 「十二月」の谷川の情景を読み取る。 ・ 前時と同じ3つの視点に沿って、「五月」の谷川の情景と対比しながら話し合う。 ・ 「五月」のかわせみが出現したときの様子と、「十二月」のやまなしが落ちてきたときの様子に着目し、違いを話し合う。	○ 擬声語や擬態語、比喩表現に着目して情景を捉えさせ、「五月」との違いを表にまとめながら対比させるようにする。 ◆ 擬声語や擬態語、比喩表現などに着目し、その役割や効果に気づき、「五月」と対比しながら情景を読み取っている。 【読イ言(1)ク】<発言・学習シート>
	⑥ なぜ題名が「やまなし」なのかを話し合い、作品に込められた作者の思いを考える。 ・ 「五月」のかわせみ、「十二月」のやまなしが、それぞれかきの親子にもたらしたものを話し合う。 ・ 「イーハトーヴの夢」から読み取った賢治のものの見方や考え方を参考に、「やまなし」に込められた作者の思いを考える。	○ 題名を「やまなし」にした意図と、賢治のものの見方や考え方を照らし合わせ、作品に込められた作者の思いを捉えることができるようにする。 ◆ 学習を通して深まった作品や作者への理解を基に、「やまなし」に表れている作者のものの見方や考え方を捉え、自分の考えをまとめている。【読オ】<学習シート>
	⑦ 「やまなし」を紹介する文章を書く。 ・ 前時でまとめた自分の考えを基にして、「やまなし」を紹介するための文章を書く。 ・ <第1段落>物語のあらすじ <第2段落>作品に表れていると感じた宮沢賢治のものの見方や考え方と、その根拠となった内容や文章 <第3段落>読むことをすすめるコメント	○ あらすじのまとめ方や、本文からの文章の引用など、読み手にわかりやすく伝えるための工夫を意識させながら、文章を書くことができるようにする。 ◆ 作者のものの見方や考え方がどのように作品に表れているか、根拠を明らかにしてまとめている。【読オ】<学習シート>
	⑧ 前時に書いた文章を交流し、自分の考えを広げたり深めたりする。 ・ グループごとに発表、意見交流を行う。 ・ 交流して広がった考えを、第2段落と第3段落の間に書き加える。	○ 異なる内容や文章から同じものの見方や考え方を読み取った児童同士、同じ内容や文章から異なるものの見方や考え方を読み取った児童同士をグループにし、広がりのある交流ができるようにする。 ◆ 作品から読み取った作者のものの見方や考え方を交流し、自分の考えを広げている。 【読カ】<学習シート>
三	⑨ 自分が選んだ宮沢賢治の作品を紹介する文章を考える。<本時> ・ 「やまなし」を紹介する文章と同じ3段落構成で文章をまとめる。 ・ 書いた文章を、同じ作品を選んだ人同士で発表し合い、意見交流を行う。 ・ 交流して広がった考えを、第2段落と第3段落の間に書き加える。	○ 平行読書してきた賢治の作品の中から、「宮沢賢治のものの見方や考え方がよくわかる作品」を一つ選ばせ、⑦⑧で書いた文章を参考にさせながら、自分の考えをまとめることができるようにする。 ◆ 作品から読み取った作者のものの見方や考え方を交流し、自分の考えを広げている。 【読カ】<学習シート>
	⑩ 前時に書いた文章を使ってリーフレットを作り、交流する。 ・ リーフレット用の用紙に配置を考えて清書をし、完成したものを交流し合う。 ・ 単元の学習について振り返る。	○ 挿絵や見出しなど、読み手に興味をもってもらえるような工夫を加えさせながらリーフレットを作成させる。 ○ 単元の学習全体を振り返り、作者のものの見方や考え方と作品とを重ねて読むことで、より深い読みができたことを自覚できるようにする。

	◆ いろいろな作品から読み取った作者のものの見方や考え方を交流し、自分の考えを広げている。 【読オ】 <リーフレット・学習シート>
--	--

6 本時の指導

(1) 目標

作品から読み取った宮沢賢治のものの見方や考え方を交流し、自分の考えを広げることができる。

【読オ】

(2) 展開

学習活動	・指導上の留意点 ◆評価 <評価方法>
1 学習計画を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習を活かし、自分の選んだ賢治作品を紹介するリーフレットを作るための、準備をする時間であることを確かめる。
2 本時の学習課題をつかむ。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 作品に込められた賢治のものの見方や考え方を交流し、自分の考えを広げよう。 </div>	
3 学習の見通しを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをまとめ、それを交流し、広げる本時の流れを確認し、児童が見通しをもって活動できるようにする。
4 学習課題を解決する。	<ul style="list-style-type: none"> 作品から読み取った宮沢賢治のものの見方や考え方を基に、作品を紹介することができるよう、3段落構成でまとめさせる。 <第1段落>物語のあらすじ <第2段落>作品に表れていると感じた宮沢賢治のものの見方や考え方と、その根拠となった内容や文章 <第3段落>読むことをすすめるコメント 同じ作品を選んだ児童のグループで交流することで、解釈やそこから見出す価値が多様であることに気付くことができるようにする。 交流を通して広がった考えを、第2段落と第3段落の間に書き加える。
(1) 自分の考えをまとめる。	
(2) グループで交流する。	
(3) 広がった考えを書く。	<ul style="list-style-type: none"> 交流を通して広がった考えを、第2段落と第3段落の間に書き加える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> ◆ 作品から読み取った宮沢賢治のものの見方や考え方を交流し、自分の考えを広げることができる。 【読カ】 <学習シート> </div>
5 本時学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 交流によって作品の読みが広がったことを振り返り、本時での新たな学びを自覚することができるようにする。
6 次時の学習を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 次時は、単元の学習のまとめとしてリーフレット作りをするを確認し、意欲付けを図る。

(3) 評価

評価規準 <評価方法>	◆ 作品から読み取った宮沢賢治のものの見方や考え方を交流し、自分の考えを広げることができる。 【読カ】 <学習シート>
記述例	<ul style="list-style-type: none"> 宮沢賢治のこのようなものの見方や考え方は、この作品の（交流によって新たに気付いた内容や文章）にも表れています。 この作品には他にも、宮沢賢治の（交流によって新たに気付いた作者のものの見方や考え方）というものの見方や考え方も表れています。 （交流によって新たに気付いたことが、2、3段落の間に書かれている。）